UD視点 4　授業の構成

校種や学年、教科の特性によって、有効な授業の組み立て方は異なります。しかし、毎回授業の流れが変わったり、教師の思いだけで授業を組み立てたりすると、児童生徒は、不安を感じて集中できなくなる場合があります。学級のすべての児童生徒が、主体的に授業に取り組み、「わかる、できる」を実感できるような授業の構成の工夫が求められています。

児童生徒の困っている状況　UDの視点による支援や配慮のポイント

①　単元や本時の初めに、学習の流れを提示し、見通しを持って取り組めるようにしている。

積極的に活動していない、集中が持続できない、学習活動が遅れる

配慮を要する児童生徒にとって、１時間の学習がどう進むのかがわからない状態は、集中力が持続しない要因になる場合があります。

他の児童生徒にとっても、安心して学習に取り組むことができるようにするために、必要に応じて、学習の流れの見通しを持たせることが有効です。

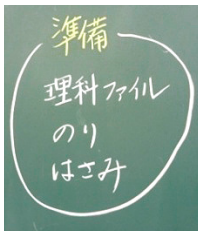
＜学習の流れの提示　例＞

■授業の初めに、大まかな１時間の学習活動の流れについて、言葉での説明とともに、見てわかる板書や掲示を行う。
■単元で目指す目標や学習活動の流れについて、掲示や紙面での配付を行う。
■授業の途中での確認や終末での振り返りに役立てる。

②　教科書、ノートやファイル、学習用具の準備について指導している。

授業ごとに使うものが準備できない、忘れ物が多い

授業で使うものの準備が整っていることは、学級のすべての児童生徒にとって、安心して授業を受けられる条件の一つとなります。



＜授業で使うものの伝え方　例＞

■次時の授業で使うものについて、前時での指示や前日の連絡を丁寧に行う。必要に応じて板書したり、紙面に印刷して配付したりする。
■単元全体や１週間を通して使うものについて、あらかじめ伝えておく。

③　導入では、興味・関心を高め、動機づけを図る工夫をしている。

授業に集中できない、課題に入る前に意欲をなくしている、すぐに課題に取り組めない

配慮を要する児童生徒に限らず、まだ学習する心構えができていないまま、あるいは興味を持てないまま授業が進んでしまったことが、問題の要因となっている場合があります。

発達段階や教科の特性に合わせた導入の工夫を行い、その後、意欲的に学習に取り組めるようにする必要があります。

＜導入の仕方　例＞

■「おもしろそうだな」、「もっと知りたいな」、「なぜだろう」と思えるような話題を投げかけたり、教材・教具を提示したりする。
■前時までの学習内容を想起させ、本時の意欲につなげる。
■本時に必要な既習事項を復習問題で確認する。

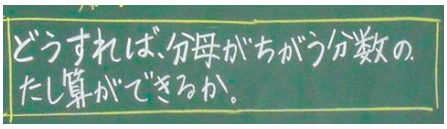
④ わかりやすく主体的に取り組めるような課題設定を行い、自力解決のための思考の手がかりを持たせている。

何をすればよいのかわからず戸惑っている、教師の支援があるまで取り組めない

課題を提示する際には、児童生徒が、何について考えればいいのかがわかる文章で伝えることが必要です。自力解決の前には、何を手がかりにして思考すればいいかを考えさせ、様々な意見を引き出します。児童生徒が主体的に問題解決に取り組む授業づくりを進めましょう。

＜思考の手がかりとなる学習活動　例＞

■既習事項を活用する。　■教科書や資料などを調べる。
■これまでの経験をもとにする。　■友だちと話し合う。
■絵や図で表して考える。　■他の例と比較する。



⑤ 展開では、主体的な学びを保障するための学習活動の時間配分を工夫している。

十分に力を発揮できないでいる、時間内に問題を解決することができない

１時間の授業は、様々な学習活動で構成されます。それぞれの学習活動について必要な時間の配分がうまくなされていないことが、要因となる場合があります。

＜時間配分の仕方　例＞

■指導内容を焦点化し、学習内容を精選する。　■学習活動の配列を吟味し、適当な時間を調整する。

⑥ ペア学習、グループ学習、一斉学習など、ねらいに応じて様々な学習の形態を工夫している。

自分の考えや思いを発表できずにいる、積極的に活動していない

児童生徒の興味・関心、理解度に合わせて、学習の形態を工夫することで、「わかる」から「よくわかる」を促すためのかかわりが生まれます。
発表に自信がなかったり授業に受け身だったりする児童生徒に、積極的に学ぶ姿が期待できます。

＜ペア学習やグループ学習でねらう力　例＞

■友だちから学ぶ力　■友だちに言葉で伝える力　■話し合う力　■協力して取り組む力

⑦ 集中力を高めたり気分を切り替えたりする活動を取り入れるなどの工夫をしている。

授業の途中で集中力が切れてしまう、授業に参加しているが能率が上がらない

ストレス耐性が低い児童生徒には必要な支援ですが、学級のすべての児童生徒に対しても、以下のような活動を、個人はもちろん、ペアやグループの形で取り入れていくことが効果的です。

＜集中力を高めたり気分を切り替えたりする活動　例＞

■作業　■発表　■音読　■板書　■その他動作を伴う活動

⑧ まとめでは、「わかった」、「できた」という満足感・達成感を実感できる活動を工夫している。

授業のまとめを理解していない、問題を解決した喜びが少ない

理解の定着の仕方は児童生徒によって異なります。学級の実態に合わせて、わかったことをまとめる活動を設定し、一人一人に学びを振り返らせ、満足感・達成感を実感できるようにします。

＜まとめの活動　例＞

■ノートなどにまとめる　■確認問題を解く　■発表し合う